

発行： 開発教育協議会

東京都新宿区西早稲田2-3-18-61

電話 03-3207-8085

全国研究集会。八月二四 二五日 東京で

今年の全国研究集会は8月24、25の両日（土、日）東京都渋谷区代々木の国立青少年総合センターで開くことになった。通常のプログラムは24日午後から25日午後までの研究協議と実践事例発表などだが、今年は開発教育協議会結成の十周年記念とあって、前日の23日（金）午後6時半から同じ会場で「21世紀に求められる日本人の意識」と題する公開シンポジウムを開く。発題者は武者小路公秀、中根千枝、松下俱子の諸氏。研究集会参加費は前日の公開シンポジウムを含めて3000円（会員）。宿泊あっせん希望の方には早稲田奉仕園（新宿区西早稲田、朝食付き一泊3,600円）を用意している。

参加と実践事例の発表申し込みは、7月末日までに事務局へ。

集めてみよう 外国人のイメージ

学校でも青少年団体でも簡単に実践できる開発教育活動の一例。みんなで青少年向けの週刊誌、月刊誌、コミック本、コミック雑誌をできるだけたくさん持ち寄ってみよう。そしてそこにでているいろいろな外国人の写真やカット、イラストを切り抜いて、別の模造紙に貼りだしてみよう。余裕があれば外国人についての表現も集めると面白いだろう。外国人といってもさまざまだが、どんなイメージを伝えようとしているのだろうか。いわゆる西洋人とそれ以外の外国人との間に、取り扱いや取り上げかたの違いはないだろうか。もしそういう違いが観察されたなら、なぜそうなっているのかをみんなで話し合おう。偏見や差別感をもって発展途上国の人たちを描いているものがあれば、筆者や出版社に抗議しよう。

これはイギリスのオクスファムがユースワーカーに呼びかけている活動の一つである。日本でやってみるとどういった結果がでるだろう

うか。

Development Education か
Education for Development か

ジュネーブのユニセフでは、開発教育についてのニュースレターを発行していて、日本ユニセフ協会はその翻訳して不定期だが資料として刊行している。そのもっとも新しい号によると、ジュネーブのユニセフでは開発教育の新しい状況を見直しているところだという。その視点は、開発教育が多くの隣接の教育課題群と問題を共有している現状を開発と地球社会教育から見直して整理しようということのようである。1974年のユネスコの国際教育に関する総会勧告以降の、相互にオーバーラップしている教育課題群の考え方の整理、あるいは南北相互依存という認識下における開発問題学習という新しい展開に備えての理論整備、ということが課題のようである。この見直し作業の結果が、はっきりとした結論として示されるのかどうかは明らかではないが、問題をどういったように整理していくのかは注目しておきたい。

もう一つ、この資料にはユニセフはEducation for Developmentということばを開発教育に使いだしたらしいという紹介がある。

このニュースレターを準備している時点では紹介者がたまたま外国出張中だったので、具体的な使い方を確認することはできなかったが、これは方向によっては開発教育についての考え方の大きな転機になるかもしれない。

Education for Developmentというのは、開発教育とほぼ時を同じくして、1970年代にアジアの発展途上国の間から、学校教育についての伝統的な発想の転換を求めて提出されてきた考え方である。日本語では「開発のための教育」と訳されている。教育は個人のためではなく社会の開発のためのものである（もちろん開発は精神的、文化的領域までも包含し、人間の尊厳を取り戻すための総合的なものであるということも前提にしてだが）べきだというように、教育の目的から内容、方法にいたるまで、伝統的な概念や方法に対する革新的な代案をだして、実践しようという動きだった。

その考え方はアフリカからさらにラテンアメリカに広がり、ラテンアメリカでは学校教育だけでなく農民の識字教育に取り入れられパウロ・フレイレの解放の教育理論に結びついた。開発のための教育は、特に貧しい階層を対象とするノンフォーマルな教育活動で取り上げられた時に、開発とはなにかを考えさせることと結びついたようである。一握りの為政者や金持ちのための開発から、自分たちのための開発に変えていくためにはどうすればよいかを考えさせた。開発とはなにか、開発に参加するとはどういうことなのかを、南側の人々は学習し始めた。学習のないところに開発はないというわけであり、開発問題の学習は発展途上国の人々にとって必須の学習課題というわけである。

そこで、これまで北側の諸国だけのものと考えられていた開発教育が、開発問題を学習

するということで南側諸国と学習活動上の接点がでてきたことになった。そのことによって北側諸国の開発教育の内容が一段と問われることになるし、また接点のありようによっては、一段と豊かになる可能性を示しだしたといえる。

すでにボーイスカウトやYMCAのような世界的な青少年団体では、南側と北側の教育事業担当者が、開発教育について協議しあうという動きがでてきている。ユニセフが Education for Developmentという用語を使った意図がどのあたりにあるのかはまだ不明だがこれは開発教育の理念的検討と開発教育ネットワーク結成のための新しい動きといえるのかもしれない。

アフリカの危機

前号でも取り上げたが、干ばつと内戦によって、アフリカの10か国、2500万人以上の人々大量飢餓の恐れにさらされていることがますますはっきりしてきたようで、ユニセフは要請額110百万ドルに及ぶ緊急援助計画を発表した。対象国はスーダン、エチオピア、ソマリア、リベリア、ギニア、シエラレオネ、コートジボアール、アンゴラ、マラウイ、モザンビークとなっている。日本ユニセフ協会はこの緊急計画をパンフレットにまとめて配布しているので、希望者は問い合わせるとよい。03-3583-4407

異常気象が続くアジア各地

沖縄の水不足が伝えられ、フィリピンのピナツボ山の大噴火がマスコミで報道されているが、それ以外のアジア各国の異常気象はニュースになっていないようだ。

沖縄が水不足の時には隣の香港や台湾も同じような災害にあっている。香港ではこれからの雨量が例年よりもかなり多く

なければ水道供給制限をせざるをえないだろうという。台湾では過去三十年に類をみない干ばつで、水道使用制限は六月に入ってから実施されていて、ダムの水が干上がって運転停止に追い込まれている水力発電所もあるという。

一方、北京の六月初頭は今世紀最大の降雨をみたという。四川省や広西省でも暴風雨の被害が報告されている。インドのボンベイは過去四十年に例をみないほどの大雨が降って十万人が家を失ったというし、インド洋上の島国、モルデブには風速145km/hの暴風雨が襲い、二十万人が住む家が流された。

パキスタンのシンド州の六月は連日40℃をこす酷暑で、寒暖計が52℃を記録した町もあるという。カラチでは停電のために十時間以上も冷房も扇風機も使えなかったことがあったというし、停電で水道も機能しなくなっていた。今年の初めにはバルチスタン州で黒い雨が、北西辺境州ではすす交じりの雪が降ったので、この異常な暑さもクエイトの油田火災のせいではないかと、まことしやかにささやかれているようだ。（7/27ウイ-66.28号）

国際的な行事日の予定です

年間をとおしていろいろな国際的な行事日が設定されています。あまり多すぎて忘れていたり見過ごしたりしがちですが、秋以降の行事予定日をあげておきます。これからの活動計画にご利用ください。しかしこれですべてを網羅しているという自信はありません。落としているのがあれば教えてください。

- 9月8日 国際識字の日
- 10月5日 世界子どもの日
- 10月6日 国際協力の日（日本）
- 10月16日 世界食糧の日
- 10月24日 国連の日、国連軍縮の日
- 11月11日 世界平和の日
- 12月1日 世界エイズの日

12月10日 世界人権の日

お知らせのご案内です

会員団体や関係団体からの催しごとのお知らせのご案内です。実施の日付の早いもの、そして日付にかかわりのないものの順にしています。

§ 国連シンポジウム

国連広報センターでは7月24日（水）午前10時から東京千代田区の日本プレスセンタービルで、講演とパネル討議によるシンポジウム「国連をどう教えるか」を開きます。参加希望者は東京都港区青山1-1-国連広報センターシンポジウム係まで申し込みを。電話は03-3475-1611

§ 教員のための国際理解教育入門セミナー
大阪国際交流センターでは8月19、20の両日、大阪市天王寺区の同センターで開発問題学習のためにという副題をつけた表記のセミナーを開きます。関西一円の学校教員が対象で問い合わせは大阪市天王寺区上本町8-2-6の同センターまで。電話06-772-5931。

§ 国際理解教育論文募集

大阪狭山市の国際理解教育研究所では今年も国際理解教育論文を募集します。一次審査のために概要を8月末までに、大阪狭山市今熊2丁目帝塚山学院大学内 国際理解教育研究所に提出。詳細は同研究所に問い合わせのこと。電話0723-65-0865。

§ 世界人権宣言翻訳コンテスト

アムネスティ・インターナショナル日本支部では、ふだんの、わかりやすい、やさしいことばをめざす世界人権宣言翻訳コンテストを行っています。締切は8月末。部分訳やパロディ訳などでもよい。1000円分の切手か郵便為替を大阪市北区中津3-17-5アムネスティ・インターナショナル大阪支部に送ると、人権宣言の英文などの資料が届けられる。電話での問い合わせは06-376-1496。

§ シャプラニール夏の活動

全国研究集会を7月19-21日に開きます。
バングラデシュへのスタディツアーを8月8-19日の予定で行います。担当はそれぞれ坂口と杉本、電話03-3202-4593までお問い合わせを。

協議会事務局から

★ 第49回理事会

5月9日の午後開催し、総会提出の議題と総会運営について協議した。

★ 第50回理事会

6月28日の午後開催し、代表理事に宮崎幸雄氏を選出したあと、日本YMCA同盟の吉永宏氏を事務局長に委嘱し、全国研究集会、中期計画推進委員会などについて協議した。

★ 91年度第1回運営会議

6月17日の夜開催し、全国研究集会について相談した。

【新入・継続会員】（敬称略，5月1日～6月27日）

〈新入会員〉

谷沢一江（東京） 桜井義秀（北海道） 小林孝男（宮城） 安井久寿（東京） 宮入直子（神奈川） 松本洋（東京） 松尾通成（茨城） 中村恭子（東京） 中津美和（京都） 清水学（東京） 杉山尚子（神奈川） 在田昌弘（福岡） 金香百合（大阪） 金子洋子（東京） 飯尾光子（大阪） 初岡昌一郎（東京） 江釣子真一（東京） 巢瀬 奈緒美（東京） 原久美子（東京） 橋本実千代（茨城） 和賀井稔（神奈川） 三宅敬（姫路） 山口哲子（福島） 福島安世（東京） 檜垣友孝（島根） 高田真砂子（大阪） 渋谷 恵（茨城） 秋山智子（茨城） 全国子ども会連合会（東京） 細田貴子（茨城） 中村隆一（神奈川） 杉木貴喜（埼玉） 溝口恵美（茨城）

〈継続会員〉

米良重徳（岡山） 猿山浩（茨城） 川崎史人（東京） 井上健（タイ） 日本国際飢餓対策機構（東京） 星野昌子（東京） 松下俱子（神奈川） 富岡紀子（埼玉） 寺田正（熊本） 立柳聡（東京） 古谷田紀夫（神奈川） 北村理（兵庫） 金谷敏郎（埼玉） 梅村松秀（東京） 雨森孝悦（神奈川） 関西セミナーハウス（京都） 横浜YMCA（神奈川） 田頭明子（東京） 松井やより（東京） 松比良節子（千葉） 西井和裕（埼玉） 中山信一（千葉） 武元茂人（三重） 羽田野彊（大阪） 吉原喜代（千葉） 房野桂（神奈川） 田中治彦（岡山） 立正佼成会青年開発課（東京） ユニセフ関西市民の会（大阪） 日本フォスタープラン協会（東京） 神戸YMCA（兵庫） 中西珠子（東京） 秋尾晃正（東京） 四車ユキ子（広島） 野元弘幸（愛知） 西岡尚也（京都） 中川哲也（栃木） ビセンテ ボネット（東京） 甲斐田万智子（アーン） 荒木重雄（東京） 赤井充也（東京） 西川 潤（東京）

☆今年度の理事・監事です。どうぞよろしく。（団体個人別，五十音順，◎は代表理事）

理事〈団体〉 赤井充也（アジア協会・アジア友の会） 有馬実成（曹洞宗ボランティア会） 河村幸一郎（日本シルバーボランティアズ） 生江 明（シャプラニール＝市民による海外協力の会） 根津三郎（日本エミフ協会） 平田 哲（日本クリスチャンガーマー関西セミナーハウス） 柳 坪 博之（国際協力推進協会） 湊 明弘（青年海外協力協会） ◎宮崎幸雄（日本YMCA同盟）

中央青少年団体連絡協議会

理事〈個人〉 臼井香里 金谷敏郎 星野昌子 田島伸二 松下 俱子

監事〈団体〉 雨森孝悦（日本国際交流センター）